

自由な発想で世界に日本の帆布を広めていきたい。



武鐘 悟志

織布（機織り・織機の準備/セッティング）



もっと生の声

Q & A

―― 思い出に残っている出来事は？

入社して、織布の工程を学んで行く中で、帆布が織り上がるまでの工程の多さに驚き、それと同時に、一つ一つの工程で様々な苦労があることに気付かされたことです。そして、ベテランの方は、常に織機の状態に注意を配り、天候や織機の音などに合わせて、織機の調整をしていることにも驚きました。

―― 今後挑戦してみたいことはありますか？

新しい生地の研究開発です。帆布は、海外では空間デザインやインテリアに使用されていると聞き、国や地域で用途が違うことに驚きました。自分の既存概念に縛られず、自由な発想で国内外の市場にチャレンジしていきたいと思っています。

―― 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

ものづくりは、様々な人の協力があって成り立っています。一人一人が、周りの人への感謝を忘れず、様々なことにチャレンジしていくことで、日本の繊維業界全体の価値向上に繋がると 생각합니다。一緒に挑戦していきましょう！

27歳の時に家業の織物業を未来に繋げていきたいと決めたという武鐘さん。10年間の海外生活を経た後、2年間の会社員を経験し、地元倉敷市に戻り実家の丸進工業に入社しました。「家業を継ぐことに対しては、最初は葛藤がありましたね。」と話す武鐘さん。丸進工業の海外展示会出展で通訳を手伝った際に、国によって帆布の用途が違うことやバイヤーの柔軟な発想に驚かされたそう。その時に、帆布の持つ大きな可能性を直接感じる事ができたことが、入社を決めるターニングポイントになったと言います。2021年の5月に入社し、まず、合糸・燃糸という綿織物を作る最初の工程を経験。数本の単糸を合わせ、撚り合わせ糸を作る工程を担当しました。そして現在は、織布を担当し、織機の準備・清掃を行っています。「弊社の強みは、現在は製造されていないビンテージのシャトル織機で織り上げる帆布です。この織機で常に安定した品質の帆布を織上げるために、メンテナンスには細心の注意を払っています。この織機でしか表現できない風合いは、未来に繋いで行きたいですね。」

今後は、すべての工程を経験した上で営業やマーケティングなどに生かしていく予定だそうです。「帆布製品は、実は皆さんの身のまわりにたくさんあるのですが、以外と気付いていない人が多いんです。もっと認知いただけるよう努力も必要ですし、もっと日常生活を華やかにする用途もあるのではないかと考えています。小さなニーズにもしっかりと答えていくことで、帆布の可能性を広げていきたいですね。」

